派生開発における見積モデルの構築



日本ユニシス株式会社

桝田秀和

Hidekazu.Masuda@unisys.co.jp

開発における問題点

派生開発(改良開発)における見積は、新規開発と異なり、一般的なモデルが存在しない。そのため、以下の問題が発生する。

- ・業務スキルの高い要員に見積作業の負担が 集中する。
- ・工数と費用の根拠が不明確なため、顧客の納 得感が低い。



手法・ツールの適用による解決

派生開発の開発標準であるXDDP(eXtreme Derivative Development Process)をもとに、以下の拡張を行い見積標準を策定した。

- ・見積ステップ毎に複数のTMを作成する。
- ・作業毎の工数算出ワークシートを策定する。 これにより、工数根拠の明確化と見積作業の分 業を可能にした。

現状の課題と解決策

新規開発の見積もり

- ・精度、根拠は不明確でも許される
- ・標準的な技法(FP法)を利用でき、必要な業務経験が少なくて済む

派生開発の見積もり

- ・修正箇所に関する根拠を顧客に問われる
- ・標準的な技法(FP法)が存在しない
- ・的確に修正箇所を捉えるためには開発経験が多く必要となる 難しい

スタイプ 現状の課題

簡単

見積根拠が不明確

一部要員に負荷集中

標準作業時間が定義されていない

新しい見積標準

要件から作業までのトレーサビリティ確保

作業ステップを分解し 分業可能に

成果物をベースとした 標準工数表の作成

見積標準の参照モデルとしてXDDPを利用する
→USDM、TMの構成を拡張

新しい見積標準

トレーサビリティ・マトリクス(TM) 作業の役割分担 分業可能 システム要素 Level-0,1 TM 業務 スキル 要求R1 要求 拡 高 R1-SPEC1 0 張 技術者 仕 要求R2 R2-SPEC1 \bigcirc \bigcirc Level-2 TM 見積作業フロ 根拠提示 業務 Level-0 Level-1 Level-2 工数算出 スキル TM TM TM 低 下位要求 オブジェ 作業成果 技術者 工数算出シート 上位要求 •仕様 クト $\sqrt{}$ チーム 作業 機能 工数 パターン